

西池袋 ・ 池袋地域

○日 時 平成 21 年 11 月 12 日（木）午後 7 時～午後 9 時

○会 場 勤労福祉会館第 7 会議室

○区民参加者 12 名（別記一覧）

○区側出席者

区 長	高野 之夫
副区長	水島 正彦
教育長	三田 一則
政策経営部長	横田 勇
総務部長	小野 温代
区民部長	齋藤 賢司
文化商工部長	東澤 昭
清掃環境部長	永田 謙介
保健福祉部長	大門 一幸
子ども家庭部長	吉川 彰宏
都市整備部長	増田 良勝
土木部長	亀山 勝敏

○司 会 政策経営部企画課長 小澤 弘一

区 民 参 加 者 一 覧

池袋乱歩通り商店街振興組合	理事長	青木 一朗
NPO法人いけぶくろ大明	理事長	杉本 カネ子
勤労福祉会館	館長	星 治男
民生委員・児童委員協議会 池袋西地区	会長	西矢 亥津子
第3地区青少年育成委員会	会長	稲垣 幸房
池袋西地区開発委員会	委員長	星 明良
としまNPO推進協議会	代表理事	柳田 好史
池袋西口駅前商店街	副会長	石森 宏
池袋第三小学校PTA	会長	橋田 啓
池袋小学校PTA	会長	鈴木 寛伸
西池袋中学校PTA	副会長	加賀谷 幸樹
西池袋中の改築等を考える会	会長	佐藤 智重

主なご意見・ご要望の要旨と回答

(※以下、枠内がご意見・ご要望、枠外は区からの回答として整理しています。)

○都市再生緊急整備地域の指定について

- ・都市再生緊急整備地域の指定には期限があると思うが、提出期限はいつなのか。期限が迫っているように思うので、早く手続きしてほしい。
- ・西口駅前街区は40年以上たって更新の時期を迎えている。有事の際の対応等行政はどう考えているのか

都市再生特別措置法における期限は、懇談会席上でもご説明いたしましたが、平成24年3月となっています。延長措置の有無については、現在のところ、明らかになっていません。今、池袋では、地域と行政が力を合わせてまちづくりを進めています。優良な民間プロジェクトによる開発促進と公共貢献は、池袋副都心再生の大きな推進力であり、区は、都市再生緊急整備地域の指定に向けて全力で取り組んでおります。

都市整備部長 増田 良勝

○社会貢献に対する認定制度の提案について

- ・住民、企業、行政、いろいろなここがどう結びついていくか考えるべきである。特に企業の参加が少ないように思う。企業は独自の社会貢献をしていると思うが、その社会貢献が認められなければならない。ボランティア等の社会貢献に対し、豊島区独自の認定制度があるとよいと思う。そういう中で協働を進めていく仕組みを作っていければよいのではないか。

○マンション問題について

- ・町会、商店街、NPO、様々な街の構成員のネットワーク化が重要だ。世界一の過密都市である豊島区ではマンション問題が発生していると思う。この新たな住民（空中住民）はそこだけで新しい文化を創っていく。そういった人にどうアプローチするか考える必要がある。
- ・豊島区独自の評価制度の考えは素晴らしい。社会貢献したい企業はあるが、それを評価する手法は少ない。また、「銀座のミツバチ」の話を聞くと池袋でもやりたいと思う。夢を忘れないというのが必要と感じる。みんながまとまって夢を追いかけるといような施策を区からもとっていただけるとありがたい。

○ボランティアについて

- ・不景気の中でボランティアが集まらない。どんなに良い政策でも質の良いボ

ランティアがいなければだめだ。教育の中でボランティアの必要性を訴え、育ててほしい。

○学校週5日制と隣接校選択制について

・10月22日に育成委員会連合会と区議会子ども文教委員会の委員さんと懇談があった。その中で学校週5日制と隣接校選択制について議論が分かれた。行政の見解を聞かせてほしい。

・西池袋中学は学区域が広く、隣接校選択制もあり「子どもの安全を守る」「地域で子どもを育てる」などの地域での子どもの見守りについて、もう一度考え直す必要がある。

子どもが育つ基盤としては、学校、家庭、地域であるがその機能が最近やや学校に集中しているように見受けられる。少子高齢化で区内の小学校などは2クラス以下のところが多いが、大規模、小規模それぞれの持ち味を大事にしたい。隣接校選択制は10年目を迎えるが、現在作成中の教育振興基本計画の中でメリットデメリットを検証中である。まとまってきたので議会やこのような機会をとらえてご紹介したい。小規模校には講師派遣や電子黒板の導入など活性化する方法をとっていききたい。

・学校週五日制については詰め込みではなく一定程度のゆとりを持たせ、児童・生徒を地域や家に帰すという趣旨であった。しかし、新学習指導要領により授業時数が増え学校としても課題が出ているので十分検証したい。

教育長 三田 一則

○子どもが育てやすい街づくりについて

・子どもが育てやすい街が大事である。子どもが遊ぶ場所があまりなく、仕方のない部分はあるがハードとソフトをうまく使ってほしい。保育園は他区に比べて入りやすかった。今後もその状態をキープしてほしい。

最近、豊島区では都心回帰による人口増に伴い、子どもの数も少しずつ増えている状況にあります。4、5年前と比較しますと、出生数も1,400人台から1,600人台へ、6歳以下の未就学児童の数も9,400人程度から9,900人へと増加しています。これは、利便性の高い豊島区を居住地として選択し、あるいはこの地で子育てをしたいと願うファミリー層が増えているものと推測され、豊島区にとってたいへん望ましい傾向といえます。それだけに子どもの遊び場所や保育園などのハード面の整備は重要な課題であります。現在のところ、廃校後の学校跡地で運動公園などの整備計画について順次具体化を進めているところです。また、保育園は子どもの増加を反映して、特に東部地域を中心に待機児童問題

が深刻化しており、本年4月現在で122人の待機児童が発生しています。しかしながら、区内には33か所もの保育園が存在し、他区と比較しても充実した保育基盤が本区の最大の強みですので、今後の待機児童対策は、東部地区の新規増設のほか、老朽化した既存保育園の改築改修を短期間で集中的に実施することで、保育室を拡張し、受入れ数の拡大を図りたいと考えています。

一方、ソフト面では、子育てひろば事業、有償ボランティアによるファミリーサポート事業など、地域における子育てのネットワーク化と支えあいの強化に取り組んでおりますが、何よりも地域での子どもの見守りと健全育成に多くの大人の方々が結束して取り組んでいることが豊島区の大きな特徴です。青少年育成委員会、町会、PTA、民生・児童委員の方々が学校とも協力して、子どもたちのために、毎年、工夫を凝らした様々な行事を企画・実施していることは、他の自治体でもあまり例を見ない「地域力」であり、豊島区にとって大きな『誇り』であると思っております。行政として、今後もこのような地域の方々の活動をしっかりと支援してまいりたいと思います。

子ども家庭部長 吉川 彰宏

○高齢者への施策について

・一人暮らしのお年寄りは地域との関連をどのように構築すれば良いかが分からないようでこれから先が不安である。退職後、認知症になるケースや私たちが訪問すると長時間話をするケースもあり、このようなさみしいお年寄りに対して、なにかできないかと考えている。

○勤労福祉会館の取り組みについて

・本来は地域コミュニティの柱として、みなさんのお話を聞く立場だと思っているが、自分たちにできる講座や講演会などを通じてできることをひとつずつやっていきたい。

○町会の運営について

・私の所属する町会は豊島区の中でも小さい。どこの町会でも苦労しているが、人数が少ないため、委員の選出などの町会の運営が難しい。

○コミュニティバス及びモザイカルチャーについて

・日の出地区に新庁舎が移転してしまうと西口の人たちは不便になると思う。庁舎に行くための方法（バス等）考えてほしい。西口からみると東口の開発だけが良く見えてしまう。西口の人たち、特に年寄りの足のことを考えてほしい。

・池袋の地下街は充実してきたが、やはり、人が地上を回遊しないと発展しないと思う。せっかくトキワ荘などがあるのだから、モザイカルチャーなどのように楽しんで回遊できるような案内板を作ったらどうか。一目見てわかるようなものがほしい。

・出張所がなくなって不便さを感じている。コミュニティバスの検討において細い道路は走れないというが、バスを小さくするなどして、何台も走らせてほしい。

・モザイカルチャーについて、いい考えだと思うが、維持費がイニシャルコストの7割程度かかるのが気になる。このあたりはどう考えているのか。

コミュニティバスについては、昨年12月に公共交通会議を設置し、区民の代表者も参加している中で検証してきております。懇談会席上でもご説明したとおり、公共交通で一番よいのはコミバスという認識は一致しておりますが、豊島区内でノンステップ型のバスで運行するには、全体的に道路幅が狭く走行できるルートが限られます。そこで、ノンステップ型ではなく小さい車両により、商店街や区民の方が日々行きたいところを通すルートについて、今年から来年にかけて可能性を検討してまいります。

モザイカルチャーは、池袋駅西口駅前広場のシンボルとして、また環境問題を考える一つのきっかけとして、是非とも設置したいと考えています。モザイカルチャー世界博を視察した際の説明では、ご指摘のように年間の維持管理経費は、導入経費の約7割ということでした。経費を節約する方法として、手入れになるべく手間のかからない品種の植物を植える、日常の管理を地元の方々と協働で行なう、などの工夫が必要であると考えています。今後、具体的な管理の方法等をご相談させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

土木部長 亀山 勝敏

○「みらい館大明」の案内板の設置について

・大明は地域の方だけでなく区外の人も来ている。しかし、駅などの案内板に「いけぶくろ大明」の表示がないため、場所が分かりづらい。ぜひ、表示がされるようお願いしたい。

現在豊島区内では、東京都の観光案内サイン計画に基づき「旅行者」が安心してまち歩きができることを目的とした歩行者向け観光案内標識を設置しております。池袋地域の観光案内標識は、平成20年度から3年計画で31基の地図情報の更新をしていますので、その中で旧名称の大明小学校からみらい館大明へと修正しております。なお、縮尺の関係で駅付近の標識には池袋3丁目までの範囲を示す場所が限られておりますのでご了承ください。

<改善前>



<改善後>



施設の利用者に対して場所を少しでもわかりやすく案内できるように、施設の今後の跡地活用も視野に入れながら、現在どういう案内表示をするのが最適なのか、NPO 法人いけぶくろ大明と共に考えてまいりたいと思います。

文化商工部長 東澤 昭

○災害時における地区道路のあり方について

・都市計画マスタープランにも地区道路の計画が載っているが現状は救援センター校の隣接道路が細く、あれで避難ができるのか疑問である。災害時のあり方について検討するとともに、直下型地震の危険も大きくなっている今、そのままになっている地区道路について、一步、二歩見直しを前進させてほしい。

ご指摘の趣旨につきましては、救援センターとしての機能向上などの面から、平成 21 年の豊島区議会第 1 回定例会において請願が採択されております。最大の課題といたしましては、都市計画道路のような法的担保が無い中で、複数の地権者の方々の合意形成が必要不可欠となることです。事業化に向けて引き続き調査研究を行い、関係部署と協議してまいります。

土木部長 亀山 勝敏

○外国人との共生について

・ここ 20 年の間に西池袋では外国人、特に中国の方が増えている。日本人と外国人のコミュニケーションがうまく取れることが重要だ。外国の方でも住んでいれば、小学校、中学校と通うし、その中で教育や言葉、生活の問題などが出てくる。実態をオープンにして、学校、地域がどのようにかわるかの目安を出してほしい。中国系の銀行もオープンしており、人数もいっぱいいる。

○池袋西口の環境浄化について

・駅前の現状については、ホストや客引きが増えている。パトロールに行くと

逃げてしまう。こういう状況ではお客は減ってしまう。こちらの問題のほうが身近に感じる。

○池袋西口の現状、補助 73 号線の延伸について

- ・商店が、荷物を広げて道が通れないこともある。その原因としては街が古くなりすぎたことがあるだろう。行政も含めて、地元の人たちが街をきれいにする努力が必要だ。
- ・補助 73 号線の延伸については、防災上の観点からも進めることが必要だ。広い道路があれば、火災の延焼も止まる。現状はどのような状況か。

補助 73 号線は都市計画決定されていますが、平成 27 年度までに着手又は完了すべき路線としての第三次事業化計画路線に指定されていません。

従いまして、次の都市計画道路の事業化計画に位置付けられる必要があります。また、本路線は東京都にて施行する路線でもあり、都市計画道路の事業化の見直し時期等に合わせ、地元の方々も意見を踏まえながら、東京都に対し調整していかなければならない状況です。

都市整備部長 増田 良勝